

広島市東部地区連続立体

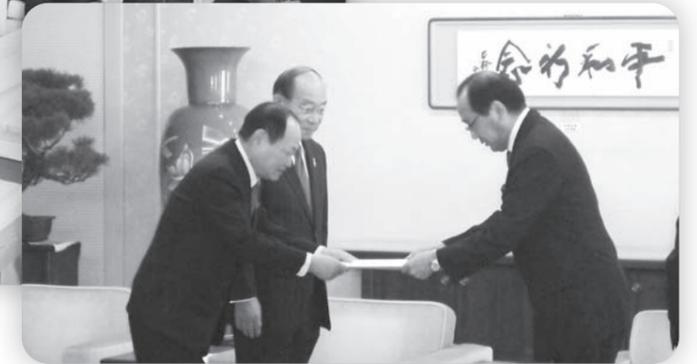
交差事業の早期実現を!

広島市東部地区連続立体交差事業に関する議会の動き(平成24年)

広島県・広島市の動き		海田町の動き	
平成24年2月	平成24年度予算案に設計費の計上を見送る旨の新聞報道	平成24年3月	広島市東部地区連続立体交差事業の早期実現を求める意見書を提出
平成24年10月	9日 広島県担当者が海田町長と面会し、高架区間の短縮の検討をしている旨を説明	平成24年10月	12日 全員協議会を開催。同日に臨時議会を開催し、広島市東部地区連続立体交差事業の早期実現を求める意見書を決議
	10日 新聞報道		23日 町長・議長・副議長・議会運営委員会委員(7人)で広島県知事と広島市長を訪問し、計画通りの実施を求める意見書を手渡した。
平成24年11月	7日 広島県知事が記者会見で、財政難により広島市東部地区連続立体交差事業の現計画は、推進が困難であるとの見解を示す。	平成24年11月	22日 全員協議会を開催し、県の担当者から説明を受けた。



決議したイケン書を手渡す(´∩`)



開かずの踏切

事業概要

事業費	約960億円 (うち海田町域約411億円)
鉄道本体分	約781億円
延長	6.3km ・山陽本線:4.6km ・呉線:1.7km
除去踏切	合計20箇所 ・山陽本線:16箇所 ・呉線:4箇所

進捗状況

事業進捗率 【H23年度末時点】	10.1% ・広島県施行:11.6% (海田町・府中町分) ・広島市施行:9.0%
用地買収率 【H23年度末時点】 面積ベース	約86% ・海田町:91% ・府中町:100% ・広島市:66%

広島市東部地区連続立体交差事業は、踏切遮断による慢性的な交通渋滞などの都市機能の阻害を解消するため、府中町から海田町までのJR山陽本線と呉線の約六・三キロメートルを高架にする事業で、広島県と広島市が事業を進めている。平成十一年に都市計画決定をし、当初は平成二十七年までに完了するよう計画されていたが、平成十九年一月、財政難を理由に、その完成時期を七年延長し、平成三十四年度に完成するよう変更された。

しかし、平成二十四年二月、広島県と広島市は、平成二十四年度の当初予算にJRを高架化する設計費を盛り込まないことを明らかにした。これに対して海田町議会は、平成二十四年三月議会において、この事業の整備促進を求める意見書を広島県と広島市に提出した。

また、平成二十四年十月十日には広島県と広島市はこの事業の高架区間の短縮を検討しているとの新聞報道があった。この新聞報道を受けて、平成二十四年十月十二日に臨時議会を開会し、この事業の早期実現を求める意見書を可決し、平成二十四年十月二十三日には久留島議長、崎本副議長、議会運営委員会委員と山岡寛次町長で湯崎英彦広島県知事と松井一実広島市長に対して、計画通り事業を実施

することを求める意見書を手渡した。しかし、平成二十四年十一月七日に、財政難によりこの計画の推進は困難である、という広島県知事の見解が示されていることが、新聞で報道されたところである。

この事業は、住民が長年にわたり願っていたことであり、線路で分断されている市街地を一体化したまちづくりを行う事ができるため、一日も早く完成させることが必要である。

海田町議会は、広島県と広島市に対して、この事業を計画通り進めることを、これからも強く要望していく。